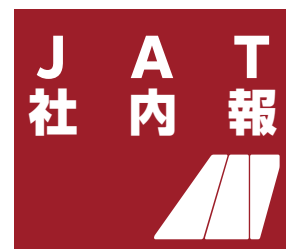


# 日本エアテック 社内報

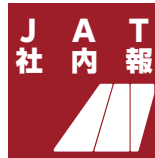


2024年 秋号

発行: 日本エアテック 企画管理部



# 日本エアテック社内報



2024年  
秋号

【発行】  
日本エアテック  
企画管理部



## KEYMAN's INTERVIEW



キーマンズ・インタビュー

—— 当社の鍵を握るあの人に、聞いてみたいことがある。 ——

## KEYMAN'S INTERVIEW

今回のキーマンズ・インタビューは、品質管理部 部長の赤石さん、副部長の廣田さんにお話を伺いました。廣田さんが第一工部より品質管理部へ異動されてから約半年、部内ではどのような変化があったのでしょうか。後半では、品質管理部の観点から当社のモノづくりの将来についてお話をいただいています。ぜひ最後までご注目ください。

## 『異例の』人事異動に込められた、部内改革への想い

**廣田** せっかく対談の機会を頂いたのが最初に、僕が品質管理部へ異動になると分かったとき、率直にどう思ったか赤石部長に聞いてみたいのですが（笑）。赤石部長もご存知のとおり、僕は20年近く現場でマシニング加工を経験してきた人間なので、僕自身異動が決まった時はとても驚きました。まさか自分が品質管理部の副部長なんて！と。

**赤石** 確かに社内でも製造部門から品質管理部へ管理職での異動は珍しいですね。ただ今回は製造部門での経験豊富な廣田さんだったので、品質管理部の副部長として迎えるのが良かったと、驚きよりも期待感が勝りました。廣田副部長なら製造部門はもろろんのこと、他部門との橋渡し役になってくれるという確信がありましたし、そうならば品質管理部は、より会社に貢献できる組織になれるはずだと思いました。

**廣田** 本当ですか？（二人・笑）今回の対談をきっかけにちょっと振り返って見たのですが、赤石部長が言われるように、製造部門にいたときは品質管理部に対し、他部門との連携をもう少し綿密に行えれば良いのと思ったことがあります。特に製造部門の第一・第二工部部とはもともと距離が近くてもいいと思います。例えば、不具合報告書に関して、現場とコミュニケーションをとらず書類だけで事象を判断しよう

としても、正確に状況を理解することは難しいです。現場では不具合の原因を上手く表現しきれていない場合もありますし、品質管理部の中には製造の経験が少ない方もいるので、対応に困る場面があります。ですので、報告書だけを見るのではなく、実際の製品を目で見て、作業者と状況の確認をし合えば、そういった場面は減るのではないのでしょうか。どれだけ突き詰めて作業しても、不具合は起こりうるもの。だからこそ、双方協力して事に当たれば解決も早く、根本的な問題の発見や、果ては生産効率の向上にも繋がると思っています。

**赤石** 現場に行って「これどういうこと？」と直接尋ねる廣田副部長の姿は、周囲にとってかなり新鮮に映っていると思います。私は廣田副部長とは対照的に品質管理部に身を置いて22年なのですが、廣田副部長の吹かせる新しい風は周囲や私自身にも良い影響を与えてくれていると感じています。

**廣田** 製造部門での経験を、品質管理部で活かすことができているのならうれしいですね。ただ現時点では、自分を起点に何か変わった、という実感はあまりないですが……

**赤石** 確かに部内全体の行動変容はこれからかもしれません。ただ先日の二次外注先の業務改善は、さすがだなと感じました。難易度の高い加工をお願いしていた二次外注先で不具合が発生し、その対応を任せられたのが廣田副部長でした。

**廣田** 自身が元々やっていた加工分野だった



株式会社エアテック 品質管理部 部長 **赤石 和男さん**

こともあり、たまたまうまく話をまとめられたのだと思います。先方へ業務改善をお願いするにあたり、無理なくできる範囲での提案をすることを心がけましたね。無理難題を一方的に突きつけるのではなく、できることを一緒に考えていきましょう、というスタンスです。お互いに歩み寄って、相互理解から物事をスタートさせていくことは、社内の業務改善においても同じく重要だと感じています。

## 品質管理部から考える、日本エアテック『進化のカギ』

**赤石** 業務改善では、今後より一層「結果」だけでなく「プロセス」にも会社全体として意識を向けることが必要であると思っています。そのための仕組みづくり、ルールづくりは組織をあげて行わなくてははいけません。これまで業務の仕組みやルールをある程度個人の裁量に任せてきました。が、統一することで、より効率のよい高品質なモノづくりを実現できるはずですよ。

**廣田** 外部コンサルタントを招いた業務改善プロジェクトにおいて、組織的なルールづくりの必要性が浮き彫りとなったことは、典型的な例です。

測定データを成績書へ自動入力するシステムを導入するにあたり、測定プログラムや成績書が一樣でなかったことが、プロジェクト開始当初の障害となりました。

**赤石** そうですね。各現場で仕事やりやすいようにシステムがカスタマイズされてきたことが

要因の一つでした。それぞれの現場や個人にとっては有益なカスタマイズですが、引継ぎの手間が増えたり間違いの原因になりかねません。全体の効率や品質のことを考えると、共通のルールを敷き、そのうえで業務を進めていくべきです。

**廣田** 個人的には品質管理部を含む間接部門にも、製造部門と同じような工数管理が必要だと感じています。業務の見える化を進め、共通のルールを敷くことにより、仕事における無理や無駄を排除することができそうです。こうした改革は最初こそ手間がかかりますが、やり切れば働く私たちに大きなメリットがあります。

**赤石** あとは部門間で連携できれば改善できる業務はいくつもあると思うので、やはり部門を超えた協調・協力を大切にしたいですね。廣田副部長、品質管理部の変革から始め、社内へ広げていきましょう。

**廣田** そうですね。普段赤石部長とこんなに熱く語りあうことは少ないので、貴重な時間となりました。ありがとうございます。最後に僕から製造部門の皆さんへ一言。製造部門の皆さんからも私たち品質管理部員に話しかけて欲しいです。書類作成な



株式会社エアテック 品質管理部 副部長 **廣田 真一さん**

どで行き詰った時は、私たち（品質管理部）が相談に乗ります！製造だけの視点で考えているのは結論が出ない問題もあるので、いざという時は遠慮せず頼ってください。一緒に考えていきましょう。

## 品質管理部の仕事が知りたい！

- ① 品質マニュアルや規格などの品質管理システムの維持管理
- ② 完成品の検査
- ③ 不具合再発防止
- ④ 二次外注先の管理

品質管理＝検査のイメージがあるかもしれませんが、検査だけが私たちの仕事ではありません。製造をはじめ、社内のあらゆる業務にはルールが存在します。そのルールを品質マニュアルや規格として整備し、製品やサービスの品質を一定の水準に保つこと、そして顧客の満足度を向上させることが私たちのミッションです。

— 品質管理部 赤石部長

# TOPICS

## 2024年度防災訓練

毎年各事業所において、防災訓練の一環として自衛消防活動を行っています。  
今回は7月3日(水)に17工場西側で行った、明石工場の防災訓練の様子をご紹介します。

当日は、火災受信機・発信機の役割や操作方法、発報後の対処方法について、実際に発報させて訓練を行いました。負傷者が出た場合や火災発生時は速やかに消防署へ通報する必要があります。通報時に必要な情報を確認しました。

通報から消防隊が到着するまでには、平均して7〜8分程度を要すると言われており、初期消火は火災の被害を最小限にとどめるために非常に重要です。そのため初期消火訓練として、水消火器を用いた放水訓練を行い(写真1)、屋外消火栓の操作やホースの取り扱い方も説明しました(写真2)。

さらに日頃から火災の未然防止のため、油製品やガス等の取り扱いへの理解を深め、コンセントからのトラック着火が発生しない様に注意するなど、皆で気を配る様にしましょう。



写真1



写真2